

企業ニュース リクルートホールディングス

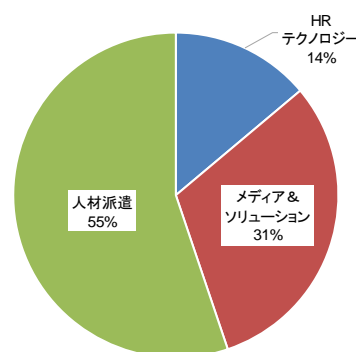
(東証1部: 6098) <https://recruit-holdings.co.jp/>

作成者: 荒木晶子

人材・販促サービス大手

1960年創業の販売促進、求人情報サービス大手。主要事業は、国内外で展開する人材派遣事業、リクナビ、スーモ、ホットペッパーなど様々な領域で情報サイトの運営を行うメディア&ソリューション事業、求人情報専門検索サイトのインディードを中心としたHR（ヒューマンリソース）テクノロジー事業の3つ。19.3期の売上収益構成比は右図の通りだが、セグメント利益構成比ではメディア&ソリューション事業が約57%を占める。当社は最重要指標を調整後EBITDA[営業利益+減価償却費及び償却費（使用権資産の減価償却費を除く）±その他の営業収益・費用]としており、20.3期は前期を上回る着実な成長を目指す。

◇売上収益構成比(19.3期)



(出所) リクルートホールディングス資料よりCAM作成

20.3期はすべての事業で増収増益の計画

19.3期の連結業績は、売上収益が2兆3,108億円、前期比6%増、営業利益が2,231億円、同16%増。計画に対して、売上収益で88億円、営業利益で131億円上振れた。HRテクノロジー事業は、インディードの新規及び既存クライアントの有料求人広告が増加したことや、新規連結した米国のグラスドアが寄与した。メディア&ソリューション事業は、販促領域の住宅分野や美容分野などの増収が貢献した。

20.3期の通期会社計画は、変化のスピードが極めて速いインターネット事業環境において、連結業績に影響を与える未確定な要素が多く存在することから、調整後EBITDAのみの開示とした。同指標の想定は、3,100~3,300億円としている。今期はすべての事業で増収、増益となる見込み。HRテクノロジー事業は新規個人ユーザー及び企業クライアントの獲得、利用者増に向けたサービス内容の強化などに対して積極的に投資を行う。人材派遣事業は、人手不足による高い人材派遣需要を見込み、国内外ともに前期比1桁台前半の伸長を見込む。

[株価動向・投資判断]

堅調な業績を背景に株価は上昇している。潜在市場の大きいHRテクノロジー事業の拡大が成長をけん引しよう。

<6098 リクルート 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益 百万円 (伸び率)	営業利益 百万円 (伸び率)	税引前利益 百万円 (伸び率)	当期利益 百万円 (伸び率)	1株利益 円	1株配当 円
18.3	2,173,385 (12)	191,794 (▲ 1)	199,228 (0)	151,667 (11)	90.8	23.00
19.3	2,310,756 (6)	223,090 (16)	239,814 (20)	174,280 (15)	104.3	28.00
20.3 予	2,500,000 (8)	260,000 (17)	270,000 (13)	190,000 (9)	113.7	30.00

(注)20.3予の会社予想は非公表、数字は日経予想。



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価(2019/6/17)	3,486 円
年初来高値(高値日)	3,629 円(19/5/29)
同 安値(安値日)	2,547.0 円(19/1/4)
予想P E R(20.3予)	30.7 倍
1株株主資本(PBR算出用)	578.0 円
P B R	6.03 倍
予想配当利回り	0.86 %
(1株当たり配当金年30.00円)	
R O E(19.3)	19.3 %
発行済み株式数	169,596 万株